

森の通信

ウータン

SAVE THE TROPICAL FORESTS

26

HUTAN

1992年12月23日発行



ウータン・森と生活を考える会

【一部】200円

〒530 大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308号「関西市民連合」事務所気付
phone 06-372-1561

【年購読料】2000円

【郵便振替】大阪3-3880

PRINTED ON RECYCLED PAPER

everybody on The 熱帯林!

【STAFF・今年のごとく】

◆ 熱帯林を 破壊するのは、主に商業伐採とプランテーション。
①自治体交渉 ②進んでいれど、③シアの森も気がかり ④ウータンの今日この頃。

◆ 熱帯林をまもろう! 『事務局長・西岡良夫』
◆ 開発や都市化が進むほどひきこかれる人と人とのつながり。 恵みを分け合う心を育んでゆきたいです。 『奥村知雄子』

◆ 考えれば考えるほど、どう動けばいいか悩んでしまつても、いろんな人との出会いが楽しみ。
『橋がら生まれた! 井下デス』

◆ サラワクの州都・クワンは「猫」の趣味どにか。

◆ 猫の博物館もあって、そこには日本の「ナメネコ」もあるそうです。 『本当タノ風』

◆ 働らけど 働らけど 我ガウータン 楽にならず。 ついでに我ガ暮らしも楽にならず。 はて? 楽とばお金のことでしょうか? ええんていいますわ。

◆ 五月のアマゾン、一〇月の屋久島が今年のメインイベント。 来年も六月までは元気で頑張るつもり。
『永田健一』

◆ 御期待。 『弁護士・大西裕子』

◆ ……(原稿 来まへんでした)……………

『笠原秀俊』

12月29日 箕面市、ウータンの『要望書』に削減方向を示す回答送付。
10月17日 ウータンで世界熱帯林週間に「アコースティック・ジャングルナイト」催す。
11月1日 第4回全国熱帯林会議、東京で開く。
11月4日 羽曳野市、『要望書』に対し削減の具体的検討をしたいと回答送付。
11月4日 出前講座「熱帯林を守ろう!」門真市教委平和教育分科会で、講演*永田

【ウータン活動報告】

11月8日 出前講座「熱帯林がピンチや」マンディで、西岡、篠宮
11月11日 出前講座「熱帯林が危い」豊中市職で、講演*永田
11月19日 出前講座「熱帯林が危い」豊中市職で、講演*永田
11月20日 「マレーシアの公害被害住民の声を聞け」集いに協力
11月22日 「雨林センター」ペーレント氏と交流
11月28日 合宿*熱帯林きょうとと意見交換、京都の法然院でীগエスト・Rさん

「みなさん、来年も頑張りますよう!」

森の通信

HUTAN 26月号 目次

CONTENTS

自治体キャンペーン経過報告② FROM OSAKA	シベリアの森の危機 - 世界の森から⑦ -
ウータンニュース①	13 ARE 公害輸出アピール
3	15 (寄稿)「私なりに出来ることやら少しづつ…」 松本市 小並北甲
5 「R.ペーレント氏に会って」 石岡裕子	16 びんわり紹介
6 ウータンニュース②	17 年賀郵便行楽と物品紹介
8 南石千子さん 講演 '92.10.17 「最小限の中の最大限の恵み」	18 ウータン・アート・ギャラリー⑤ 工橋とし子さん
9	19

表紙
◆イラスト
大きな板根をみせる巨木(アジア)
Koompassia excelsa.

自治体キャンペーン経過報告

9

西岡良夫

西ドイツ、オランダなどは「ごみ」

問題を見て判るように、資源節約型社会に向かいつつあるが、日本では熱帯木材の削減政策はこの一九九二年から全国的に拡がった。その理由として、市民団体が自治体に働きかけ、「環境ブーム」で自治体が政策を打ちだした。加えて、熱帯林破壊が進み、資源としての熱帯材が減りつつある事による。

去る十一月一日、第四回全国熱帯林保護会議が東京で開かれた。ここで、「これまでの運動と反省」や「自治体キャンペーンの今後」など話し合われた。

前日のシンポジウムで、「社」建築業協会・理事会決定を酒井氏が「五年以内に、現在の型枠用熱帯材の消費量を三五%以上削減目標とする。削減の代替として、熱帯材と針葉樹の複合合板や針葉樹合板の使用、塗装合板、打込み型枠やPCなどの使用を進める」との報告があった。最近は、大林組だけでなく清水組なども熱帯材から複合合板、打込み型枠に変えているのが、建

設業界の全国的な流れだ。

ところが、全国の各自治体の削減への取組みは、ブラジル・サミット以降緩慢な動きだ。例えば、新宿、江戸川区では、削減の姿勢を止め、松山市などでは市民団体が議会に申入れたもの審議は継続中だ。しかし、六月に小平市、志木市が国への「意見書」を決議、七月には静岡市、調布市も「意見書」を採択している。また削減案を明らかにしたのは、七月の静岡県、八月の大宮市、越谷市と除々に増えている。

大阪府下では、大阪府、大阪市、堺市、八尾市、藤井寺市、松原市が、削減案を表明し、豊中市が「意見書」の採択を行っている。また、富田林、箕面市などがウータンに回答を寄せていた。ただいたもの、今後どのくらい行うのか、私達は各自自治体と話し合う必要がある。

大阪府では来年も削減に向けてモデル事業を行うとしているが、府新庁舎を含めどこまで熱帯材を削減するのかチェックする事が重要だと思われる。

全国会議で話されたことは、①設計の段階から削減を申入れる、②期限を決める、③話し合いとチェックを粘り強く行う、④もし自治体で削減方針を出せなかつても部局単位で「削減」を仕様書に盛り込ませる、⑤本来熱帯材の使用は高くつくことを自治体に認識してもらおう、などを進めようとの意見が出た。

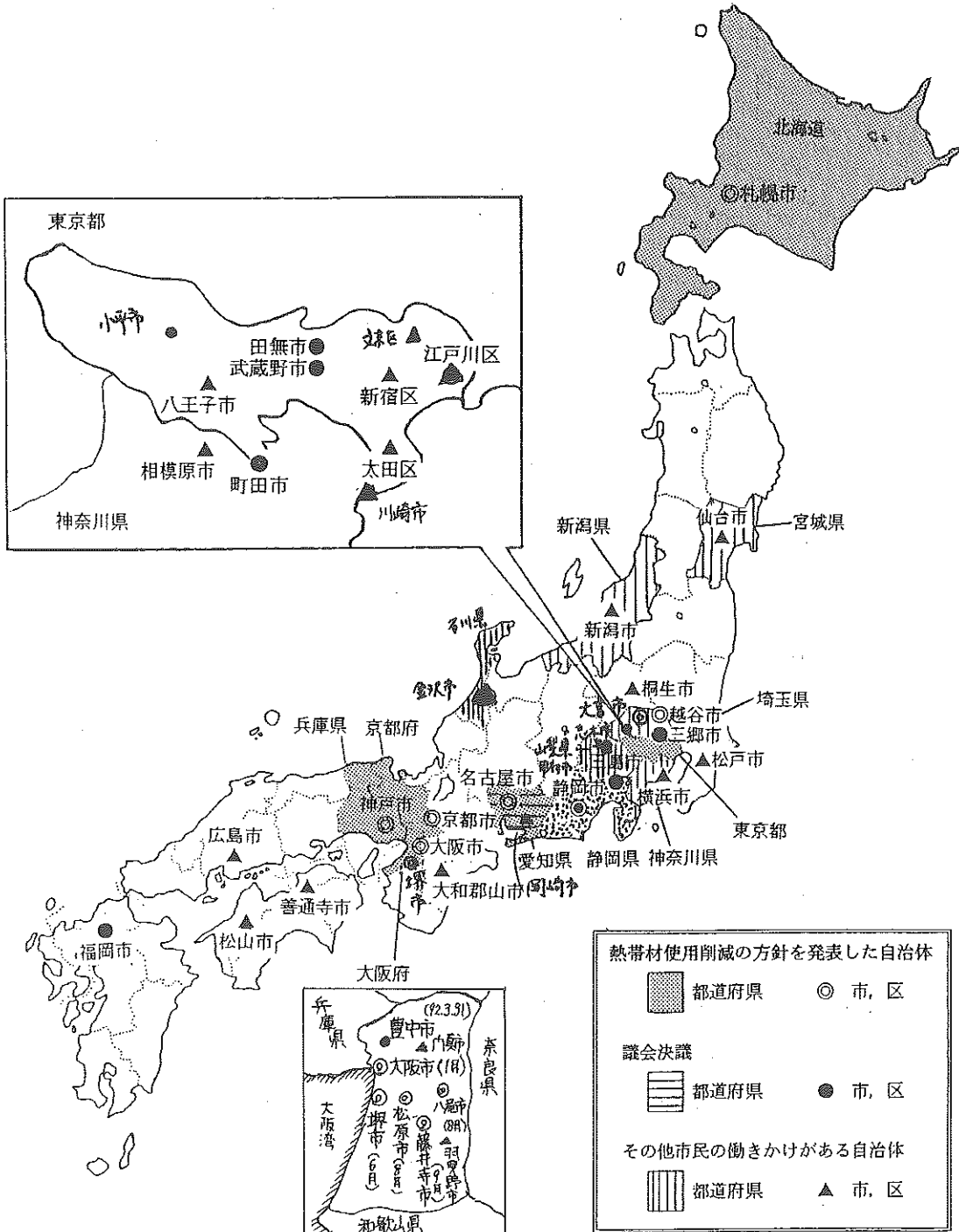
そして今後の公共事業の建て替えをなくしていくことが、熱帯材使用削減に繋がりが、「ごみ」も出さない最良の方法と、意見の一致をみた。

私達ウータンとしては、今後も引き続き府下の各自治体と削減に向けての話し合いを持っていく予定だが、自治体「キャンペーン」は専門的になってしまっているので、違う視点からも熱帯材削減に取り組みたい。例えば、熱帯材の家具問題や不法投棄の八割が建築廃材である問題などだ。

合板材にされる熱帯材は、百年以上かかって大きくなるのであり、簡単に二―三回で使い捨てたり、一年強で「ごみ」にしてしまうのでは、今後も熱帯材の破壊が続くのではないか。

日本における熱帯材使用削減、停止に向けた自治体、業界の主な動き

(92年10月31日現在；市民の働きかけがある自治体と、方針発表があった自治体はほぼ一致しています)



サラワクの執事林 伐採は今

●昨年、ITTOのマレーシア、サラワク州への伐採量削減勧告にもかかわらず昨年引き続き伐採量はとう減ってはいません。(11月末までの丸太生産量は1800万m³にもつよ、木材割当(2万付)たしかりに日本の熱帯木材輸入量は少し減ったもののサラワクへの依存度は大きく、この先の日本の消費が大きく作用してくるだろう。

又、すでに大手商社、企業はPNG(ペニニアギニア)など別の場所へその手ぎのぼしている。

1000年サラ 丸太生産 1500 ~ 1600万m³見込む

輸出、州内 95年には均等 消費比率

タイプサラワク州首相は十七日、都内のホテルで輸入業者、合板メーカーほかと懇談、持続的森林経営に留意しながら丸太輸出と州内木材工業化を両立させるとし、九五年度をメドに輸出と州内供給比率を五〇％にすることを表明、原木輸出禁止は考慮していないことを改めて述べた。さらに、恒久林地(PF区)における最終伐採目標の九百二十万立方尺は半永久的に継続出来ると述べた。

サラワク材比率64% 南洋材 質、量ともに後退

南洋材の産地別輸入量 '91年

産地	輸入量(千m ³)	前年比(%)	シェア(%)	前年比(%)
州内	6,468	21.7	64.5	11.1
クマ	2,577	24.3	25.8	11.1
ラバ	2,810	21.1	28.1	11.1
アバ	181	1.7	1.9	0.6
ボ	23	0.2	0.2	0.1
ロ	21	0.2	0.2	0.1
ン	12	0.1	0.1	0.1
ヤ	3	0.0	0.0	0.0
カ	2	0.0	0.0	0.0
ミ	3	0.0	0.0	0.0
計	10,114	8.9		

昨年の南洋材丸太の輸入量は一千一百万立方尺と前年比八・九%減少した。産地別内訳でも、サラワク州からの輸入が全体の六四%を占め、前年比三・二%上昇した。南洋材のサラワク州依存が高まっている。

輸入協会がまとめた南洋材丸太の輸入量は、一千万立方尺を割る寸前に来た。昭和四十二年以降一千万立方尺台に突入、ピークは二千六百七十八万立方尺(昭和四十八年)を記録した。今年は一千万立方尺台に減少する公算。産地別内訳は別表のとおりだが、バア・ニューギニアは前年比三〇・八%増加した。ソロモンを加え、大洋州からの輸入

上期丸太生産 1000万m³強に

—サラワク州—

四十六万立方尺で前年同期比一七・五%増加した。また、一、七月の丸太輸出量は九百四十三万立方尺、うち日本向けは三百九十五万二千立方尺で輸出比率は四一・九%。一方、サバ州の一、七月の丸太輸出量は百八十二万六千立方尺でうち日本向けは百七十八万八千立方尺で輸出比率七〇%。

主力のサラワク州、サバ州は伐採量が減少し、輸入比率はサラワク州五四%、サバ州二五・五%。比率ではサラワク州は上昇したが、逆にはサバ州は三三%減少した。東マレシアの輸入比率は八九・四%で前年比二・二%落ちた。南洋材供給拠点が東マレシア依存に移って久しい。

PNG材引き合い、高まる

主力供給減が拍車

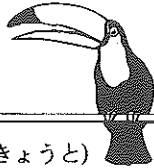
PNG材への引き合いが増えて来た。サラワク州の伐採制限が助長したものの、輸出価格も上昇している。長らく合板用材としては「代替材」の域を出なかったPNG材も、主力供給源の減少に伴って、その地位が次第に除去されようとしている。公算が強まったため、P材やスーパー、スモール材、ベビー、スモール材の輸出が減少している。P材は、P材の輸出が減少している。

日刊木材 '92.11.18 付

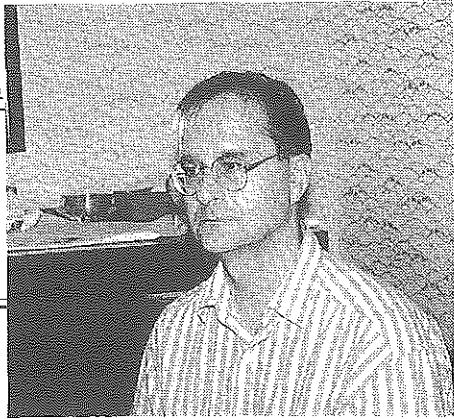
日刊木材 '92.11.16 付

ドイツ「雨林を救え・雨林センター」代表

Reinhard Behrend

ベレント氏
に会って

◆ 在間敬子(熱帯林きょうと)



11月中旬頃、ウータンの西岡さんから「ドイツの「雨林を救え・雨林センター」の代表ベレントさんが大阪に来はるそうやけど話をしにいけへんか？」と誘われ、11月22日(日)の夜、ベレントさんの宿泊先のロイヤルホテルまで出かけて行きました。ベレントさんは今回外務省の招待を受けて来日されたそうです。日本でのスケジュールは全て外務省が決めたらしいのですが、ディズニーランドや海遊館の見学など、外務省は何を考えているのかと不思議に思うような内容でした。大阪へ来られたのも実は(ベレントさんの意志とは無関係に)海遊館を訪問しなければならなかったからなのです。まあでも、大阪へ来られたから私もお話を聞くチャンスがあった訳なので…。

さて、参加したのは、ウータンの西岡さん、奥村さん、大西さん、篠宮さん、永田さん、ちえちゃん(西岡さんと奥村さんの赤ちゃん)、そして私と私の夫の総勢8名でした。ベレントさんは「こんなにたくさんの人に会えてうれしいです。」と、とても喜んでくださって、私達は彼の部屋へ案内されました。「では、さっそく始めましょう。」ということで、西岡さんが用意されたレジュメに従ってインタビューを始めました。が、まず通訳の方に内容を説明する必要がある、最初から大混乱となりました。通訳の方も大分理解してくれてやっとインタビューがうまく進みだしたと思ったら、今度はベレントさんがマイクとテープを鞆から取り出して私達に順番に一人ずつインタビューを始め、またまた大混乱となりましたが、なんとかこちらのインタビューも終えました。そして最後に、ベレントさんのカメラで「一番若い熱帯林保護活動家」であるちえちゃんを真ん中に記念撮影をしました。

以下、インタビューの内容の一部を簡単に紹介します。

- ドイツの多くの自治体で熱帯木材の不使用や使用削減を決議したと聞くが現状は？
確かに多くの自治体で取り組んでいるが、きちんと実行されていないところもある。
ドイツの熱帯木材の輸入量は、1990年で170万デューベ(日本は1571万デューベ)と少ないので、使用削減あるいは不使用に取り組むやすいという点はあった。また、ドイツでの用途は、家具や窓枠などで、コンクリート型枠用合板としては使用されていない。
- 熱帯木材の代替材としては何を使っているのか？
フランス、スウェーデン、チェコスロバキアなど木材資源の豊富などから輸入している。
- 自治体への働きかけ以外で取り組んだことは？
熱帯木材を使った家具のボイコットキャンペーンを行なった。マスコミも熱帯林の問題を取り上げて報道したら、市民が熱帯木材の家具のボイコットに動き、家具会社の中には熱帯木材を使った家具を製造しないところも出てきた。また、学校家具に熱帯木材を使用しないことも勧めた。
商社のゴミ箱から内部資料を読んで調査を行なった。この調査から、商社が熱帯木材のボイコットキャンペーンを恐れていることや、科学者を使って熱帯林の問題はたいしたことないという宣伝をしようとしていることなどがわかった。
ガーナでの調査を行ないスライドショーなどを行なった。

●何かエピソードがあれば？

(ベーレントさんが)スライドショーをした時にルドルフシュタイナー学校の子供が来ていて、その子供が他の子供達に熱帯林の問題を伝え、子供達自身が港に行って「ビルマからの熱帯木材をいれるな」というデモを行なった。(ルドルフシュタイナーというのは神秘学者で、ルドルフシュタイナー学校では自然に対する意識を高めるような特殊な教育を行なっている。)

●消費者からの運動として、木材製品に「〇〇産△△材」というような表示の義務づけに取り組みたいがどう考えるか？

むずかしいが、オーストリアでは1992年10月に輸入熱帯木材に「一部を伐採しても枯渴を招かない優良な森林から切り出した」などの表示が義務づけられた。

●ロビー活動について

緑の党の政治家に協力を求めるのは言うまでもないが、保守派の政治家にも人によっては理解を示す人がいるので、1年以上時間をかけてじっくり取り組むことが大切。

●ドイツと日本で協力できる活動のアイデアがあれば？

ドイツの政治家から日本の政治家へ手紙を書いてもらうことや、ドイツから熱帯林の問題に関心のあるクラシック演奏家を日本へ呼んで「熱帯林コンサート」をする、など。

※次のページ参照して下さい。



4 3 時間余りも続いた交流会のようす。

ベーレントさんは私が想像していたより若い人で、熱帯林の問題に真剣に取り組んでいる誠実な方でした。私達の質問に答えるだけではなく、私達の日本での活動についてもドイツの人に伝えたいという気持ちを持っておられて、私はとてもうれしく感じました。きっとベーレントさんも私達へのインタビューを通じて、私達の日本での取り組みをドイツの人に伝えてくれていることでしょう。日本に滞在している外国人の活動家の中には、外国からの情報を伝えたりしている人はたくさんいますが、日本でどのようなことを取り組んでいるかということを知っている人は少ないように思います。私はベーレントさんによって「EXCHANGE」の本当の意味を改めて考えることができました。

◆ドイツでの取り組みや「雨林を救え・雨林センター」のことは「使い捨ての熱帯林－熱帯林不使用条例の制定を－」(公人の友社)詳しくでていますので、ぜひみなさん読んでみてください。

●前ページにある、木材製品にどこから来た木(○○産)で何という材名であるかを証明し、ラベルを貼る。というようなことである。

一般の消費者にとつてなじみの薄い熱帯材や熱帯木材(魚の回りにあふれてはいるのだが……)を「熱帯材保護のために使わないように」と訴え、行動してもらおう時には

とても良い。家を建てる時、家具などを買う時の目安になる。「熱帯材不使用」「自治体キャンペーン」など低炭素している今、一般の人にもっと身近なところから改めてやることが必要だろう。これは生活の見直しという地道なことになるだろうですネ。

熱帯林保護へ「証明制度」

先進諸国 輸入材に義務付け

先進諸国は熱帯林保護のため、輸入木材について、環境破壊につながらないことの証明を求め、環境保護証明制度の導入に動き始めた。オーストラリアが輸入熱帯材に「一部を伐採しても植傷を招かない優良な森林から切り出した」などの証明を義務付けたほか、他の欧州諸国や日本でも検討が始まった。これに対し、輸出国である発展途上国側は「関税貿易一般協定(ワット)の内外無差別原則に違反し、輸入制限にあたる」として、先進国側と対立している。

【ジュネーブ10日】刀称館記

オーストラリア政府は九月、熱帯林および同加工製品に対して、①熱帯木材製品であることを示すラベルの貼付(ちようび)を義務付ける資源の枯渇を招かない持続的な森林管理に基づ

入する一の措置を実施した。熱帯森林の減少を懸念する国内の環境保護団体などの声に配慮したもので、熱帯木材を他の製品と区別することで、事実上消費や輸入を抑制する効果がある

と見られている。

欧州共同体(EU)加盟国のうちオランダが同様の制度を五年に法制化することを検討しているほか、ドイツも調査を進めている。E.C委員会も今月上旬、ブリュッセルで開いた日・

E.C環境協定で熱帯木材の環境保護証明制度の導入に向けて専門家会合を開催するよう日本に提案した。

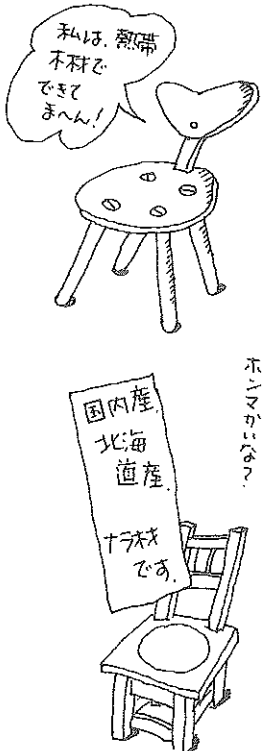
一方、マレーシア、インドネシアなど東南アジア諸国連合

(ASEAN) 諸国はオーストラリアの決定に対し猛反発。先月開いたガット理事会でASEANは「二方的で差別的な措置であり、ガット規約上、正当化できない」と批判した。ガットは動植物の生命や健康の保護を目的とした輸入制限を認めているが、「差別的でないこと」を条件にしている。また天然資源保護を自的とする輸入規制も「国内の生産、消費制限と関連する場合に限り」としている。

◇ 日本政府はE.C委の提案を受け、熱帯木材を対象とした環境保護証明制度の協議に入る方針

だ。日本も加盟している国際熱帯木材機関(ITTO)が西暦二〇〇〇年までに持続的な経営をしている森林から生産した熱帯木材だけを貿易の対象にする目標を立てており、「将来、ならかの証明制度が必要」と判断したからだ。

発展途上国側は二〇〇〇年目標の実現の条件として、持続的経営が実現できるような先進国からの技術や資金援助を期待している。また持続的経営の定義もまた国際的に確立していないため、先進国が一方的に環境保護証明制度を導入すれば貿易紛争に発展する恐れが大きい。



【南 研子さん講演】 R.F.J代表

アマゾン・最小限の中の最大限の恵み

92・10・17 大阪・江坂フーミンホール

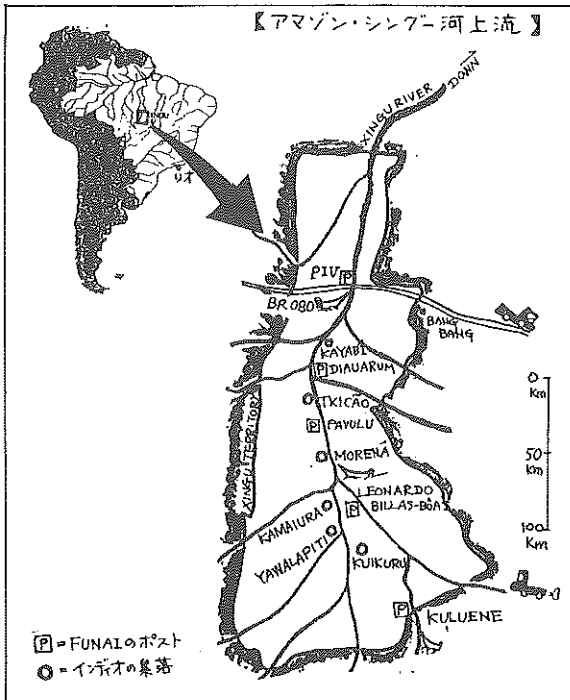


▲今年6月にアマゾンに入った話をされる 南研子さん。

今晩は、南研子です。

イギリスにステイキングという歌手がいます。彼の友達のカメラマンで、アマゾンに20年位入って開発の現場とか先住民の人達の映画を作ってたJ・P・ディテローっていう人がいるんですけど、彼があまりにもアマゾンの熱帯林の破壊が激進に進んでいるという。ステイキングは知名度があるのでアマゾンに一度入ってみてくれないかという事で、89年に彼は何日間かアマゾンで暮らしました。それで、「これは大変な事になる、これは世界中にキャンペーンを打たなくちゃいけない」と思い立つ訳です。で、世界15カ国ツアーを行いました。その時に日本に、アジアで唯一の国として来たんです。

私は其まで20年近く殆ど何もしていないというか、普通の暮らしをしてました。たまたま外人の友達がそのキャンペーンをオーガナイズするという事でボランティアで手伝ってました。ついついその後釜という事で、3年間このアマゾンの熱帯林と付き合っていくようになりました。それで今年5月初めてその現場に入って来ました。リオの世界先住民会議という、今回世界初めて世界中の先住民の人達、いつも声無き声というか声の届かない世界中の人達が集まって、先住民の人達の心を確かめ合おうという会議がありました。それは大体百位の世界の色々な所から先住民のリーダーみたいな人達が来て七百人数。私はその前には、先住民の人達っていうのに漠然と憧れていたっていうのがあったんですけど、やっぱり先住民の人達の中にも、欲・欲・欲っていうか、私達と同じで権力とかそういうたモノに憧れているタイプの人もいる、っていうのも見ました。何か凄く色々考える所が多くて、一体これは何なんだろうな、ってアマゾンのジャングルの入ったんです。



▲南に50km入られた地区。

(以下スライドを交えながら)

——ここは、ブラジルの丁度真ん中位の所、アマゾン河の支流のシングー河っていいます。このエリアは氷河期にも種の避難場所というか、回りが全部海になってもここだけ緑が残ってたという所で、地球上の生物の遺伝子っていうんですか、詳しい事はよくわかんないんだけど、大体その半分がこの日本の約半分のエリアに詰まっている、というとても貴重なエリアだったんですね・・・。

——ここがシングー河の上流にあたるんです。大体河っていうのは源流があるんですけども、このシングー河っていうのも全くもう網細血管みたいにな、ちっちゃな河がいっぱい広がっているんですけども、全部が湧き水で出来た河って言われています。

インディオの伝説で、ある女の人が男の子を生んで、その子が自分のもとを去って行ってしまっ、とても悲しくて泣いた、その涙がシングー河になっていった、という。

小さな支流が一杯併さって一つのシングー河を作ってるんです。

——これは部落に着いた所です。それで、何て言うのかな・・・私達、服着てますよね。でも、本当に服を着てない暮らしをしている人達がいる。頭の中で考えている時は自分の価値感というか、「服を着てない、凄くシンブルな暮らし」というと、私だけじゃなくても「野蛮」とか「稚拙」とかいう言葉が出てくると思うんです。私は約2週間位でしたけど、この人達と暮らししてみ、この暮らしの中には「最小限で最大限の物がある」とって実感を受けたんですね。そうして私達の住む日本に帰って来て、何と多くの物、というかそういう中に私達は居るんだらう、っていう風に考えさせられました。

——私、実はあんまり子供って好きじゃないんですけども、ここに行って、子供がとってもかわいって思ったんですね。本来「子供」ってこういう部落に住んでいる子供を言うんだらうなってっ

くづく思ったのは、やっぱり子供が子供の面倒を見て、ちゃんと子供が子供に何か大事なものを伝えていくっていうのがあるんです。で、私達の生活の中で、子供を見てるっていうのは父親とか母親とか、回りの大人しか見てない。でも、大体インディオの部落の中では子供は子供同士っていうのがあるんです。で、その中で体の不自由な子供たちも全然差別しなくて中に一緒に組み込んで入れていく。凄いなあと思いました。

私達何か基本的な事、色んな事はこう幾らでも進歩してきたって感じあるけれど、本当に人間として何をやってかなくちゃならないか、という事を忘れてるような・・・。

こういう小さい子供達から学ぶ事が、凄く多かったですね。

——水が凄く透き通ってて、・・・恐竜が出て来てもおかしくないな、っていうような。最初、やっぱりミネラルウォーターを持ってかなくちゃと、女性3人なんですけど、2週間分のミネラルウォーターなんか持っていけないしどうしようか、って言ってたんですけども。「ここで死んだら死んだでもいいや」と、みんな諦めるっていうか、まあしょうがないな、っていう感じで。「いいか」って事で河の水を飲みました。でもこの2週間、女性3人、下痢も便秘も全然しなくて「水の味って本当はこんなに美味しいんだな」私、つくづく思いました。日本に帰ってきて水を飲んだ途端に、他の二人も腎臓が痛くなるんですね。腎臓と肝臓が。何て私達って・・・アマゾンの水を飲んでも普通だったら、そういう所の水を飲んだら病気になるとかやれ何だっとかいいうけども、実際私達の方が過激というか凄く食生活しているんだな、と体で体験しました。

——私達は今、医薬品をここに送るキャンペーンを始めてるんです。この人は看護婦さんで、カラジャ族っていう、シングーのエリアじゃないインディオの女性です。彼女はブラジリアの大学、医学部まで出て、でも自分のひとつの使命はインディオの中で医療活

動をすることだ、と言って。彼女ともう一人の看護婦さんがいる、お医者さんは一人もいませんでした。このエリアに住む5000人のインディオの健康状態を守っていくには、あまりにも少ない薬の量しかありません。

最初は彼女も私が外から来た人間だ、日本人は初めてだけでも、白人は色々入って来て、このエリアの中で伝統文化のビデオとか写真とか撮って行くけれども、結局何もそれに対してこの事を保全しているこうっていう約束だけで何一つ守らない、という事で非常に受け入れてくれない感じだったんです。どこの部落に行っても仲々病人を見せて貰えなかったんです。色々話しをしていく内に、彼女が「それだったらどうい様な事が今現実起きてるか、お見せしましょう」という事で、この部落に行きました。

そしたら6人位でしたけれども、男の人が4人、女の人が2人位。本当にこう、痩せ細って、骨が皮着てるっていう状態で、皆ハンモックに寝ているんですけれども、みんな垂れ流しの状態で。「ああ、この人はあと2日位だろうな、3日位だろうな」という位ひどい状況なんです。

私それまで、アマゾンの熱帯林を守りましょうとか、先住民の人權を守りましょうとか、東京の事務所では自分はおなか一杯になって言っていて、凄いいショックだったんです。やはり日本だったらちょっと具合悪くなっても救急車呼べるとか、薬屋さんだっただけ腐る程ある薬だってある……でも何かこうやって死だけを目の前にして「何で自分はこう無力なんだろう」と。何かすごくこう、熱帯林を守るとか先住民の人達を守るとかって言っていた自分は一体、何を本当にしてたんだろうって凄く恥ずかしくなったのと同時に、とても悲しかった。やっぱり同じ地球の上で、多分戦場に行った人も同じ事を体験するんだろうな、っていう自分の無力感をどうしようもなく感じました。で、出来る事っていったら、死んでいく人達の体を

さする位しか出来ないんじゃないか、と。自分の無力感と自分の情けなさで、泣きながら何時間もその人達の体をさすって来ました。

それで、人によっては「インディオの古来の薬があるのに、こちらから薬を持っていくっていうのは非常におかしい」という人もいますけれど、やはりインディオの中の子供なんか病気になるたら、そのお父さんってのはどうにかしてでも子供を助けたい、っていうのはある訳なんです。森の中の薬がもう効かなくなつたからこそ、そういう状態になっている。本来彼らが暮らしてた状況の中では、マラリアとか結核とかそれこそ性病とかっていうのは全然無かった訳なんです。開発でこの周りの樹を全部切ってしまった、マラリアの蚊が全部下に下りてきた。それで、マラリアになる人も増えてる。薬は無い。死んで行く。っていう凄いい悪循環なんです。

マラリアの薬はとても高価なもので、一粒大体8ドル位するんですけど、時と場合に依ってはそれを2ヵ月程飲み続けなくちゃならない。そうするとたとえ百万円位あっても、10人ちょっとの人しか救えないっていう現状なんです。でも私はその状況を見て来て、これは日本に帰って一人でも多くの人にこういう事を伝えてかなくちゃいけない、自分が感じた事のリアリティっていう物はこういう事しか出来ないんじゃないかと。今迄アマゾンの熱帯林とか開発する多国籍企業に対する圧力とか、そういう事言ってたけど、もっとも人と人との心なんじゃないかな、とつくづく思いました。それで、せいせい指圧とか体をさすとか。こう、20歳前の男子は目で訴えるんです。すごく。「僕はもっと生きたい」という。それが出来ない。私も一人、息子がいるんですけど。もしこれが、自分がここに住んでるなら、親は誰でも子供を助けたいと思うし。

一応このそれぞれの首長の人に、薬を届けに今年必ずもう一度行きます、って約束したので、今私達までお金が無いんですけど、でも、そういう向こうに薬を届けるってキャンペーンをしていて、

、集まったお金を持って11月の半ばに又、この村々に薬を届けに行こうと思っています。

——公園のボートみたいなこのボートで、10日から2週間位川下りしたんです。日本の半分程のこのエリアに、2つしかありません。今迄緊急の病人が出た場合には飛行機で、と言ってたんですけど、今ブラジルはひどい状態です。インディオの予算ってのがありません。それで、飛行機もちっちゃなセスナが4台位あったんですけど、それはFUNAI(ブラジル先住民局)の高官の給料に回している、それを飛行機も全部売り飛ばして。このエリアの人が病気になる時は、もう誰も助けてくれない。死を待つだけ。と、いうのが現実でした。

——一体、熱帯林を守るとかインディオの人達を守るとかっていう事と、自分と、どういう風に関係してくるんだらうな、と今でも問い続けているんです。やっぱり自分達の生活をきちっと見直していくっていう事がいちばん近いんじゃないかなって気がして・週3回のゴミを2回にしてもいいし、今迄無駄に買った物を買わなくてもいいし。無理にストイックになる必要もないんじゃないかと思っています。只確実に、私達がこう豊かとか贅沢だとかっていう風にそれを追求していくと何処かにしわ寄せが来て、人が苦しんだり死んで行くっていう事があるんだな、と今思っています。

で、沢山の事をアマゾンから学んで、これからも学び続けると思いますが、今私達が出来る事っていったら医薬品を彼らに渡す。それで初めて、そういう村むらの人達の一つの信頼関係が出来ていくっていう。やっぱり顔がこうお互いにわかるって事は凄く素晴らしい事だと思いました。

今日は本当に、どうもありがとうございました。

(もうすぐビデオも発売予定です。医療品キャンペーンともども詳しい事は、熱帯森林保護団体☎03・3477・2589まで連絡を)



▲ラストステージでの中川イサトさんと金森幸介&The Mellowの皆さん! ステモな唄と演奏でした。どーも おおきに!!

●最後に南さんをはじめ、第2部で演奏していただいた、中川イサトさん、金森幸介&The Mellowの皆さんにはギヤラというの毛取がしいもので御協力していただきました。この場を借りてあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。(ウータン一画)

シベリアの森の危機

● 井下祥子(ウータン)



ご覧になった方も多いだろう、NHKプライム10「崩れゆく永久凍土」を見て、血の気がひいた。

ウータンをはじめ熱帯林を守ろうというグループは、コンクリートパネルの削減にとりくんできた。

その中で、実現可能な案の一つとして有望視されていたのが、針葉樹を熱帯材でサンドイッチしたコンクリートパネルだった。

少し割高になるが「環境を守るための出費」として自治体に採用してもらい、需要を拡大していく。そうすれば、熱帯材の消費を押しさえ、破壊のスピードをおとせる……。

「そやけど、針葉樹は大丈夫やるか？北の先住民は？」

こんな不安は当初からあった。

「シベリアの状況」の学習会にでかけたメンバーもいる。

しかし、はっきりしたことはわからなかった。そして、今回報道された状況は、予想よりもずっとひどい。

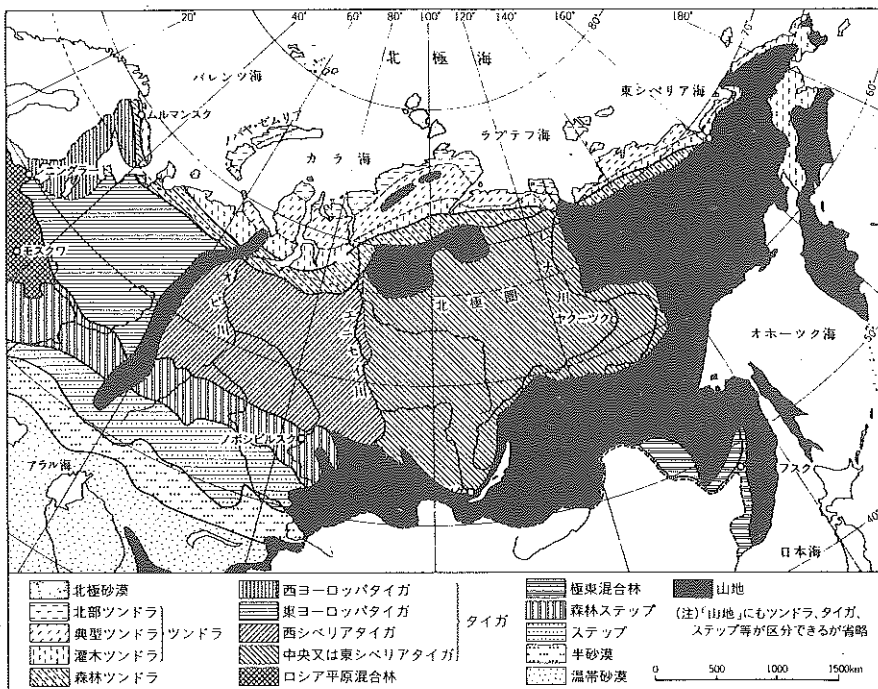
アマゾンの2倍の面積という、世界最大の森に、なにが起きているのか。

◆「永久凍土が溶ける」

ある小さなヤクトト人の村の道路が、ぱっくりと口をあけた。土の下から巨大な氷の層が姿をのぞかせる。永久凍土だ。

道路の亀裂は、どんどんひろがっていく。

ソ連の自然帯（ミリコフ、チュルノーフにより作図）



「ヤクトック永久凍土研究所」の研究者が調べていくうちに、恐るべき事実がはっきりした。永久凍土が、溶けているのだ。

「タイガ」と呼ばれる針葉樹林の下は、約1m半の薄い土の層で、その下には一年中溶けることのない氷の層が横たわっている。森林伐採で、それまで陽光をさえぎっていた木がなくなると、地面が温められ、永久凍土がとけだす。そして、小さな沼になる。

「ツンドラとタイガの世界」 畜産展ニ着(1984年)より

沼はどんどん拡がり、隣接した凍土をとかしていく。ヤクト人たちは、それを「ヘドマ（浸食された大地）」とよんで恐れている。牛を放牧する牧草地や牛小屋は飲み込まれ、孤立した村もある。

それだけではない。伐採されていない森林も、それによって倒れてしまうのだ。木をなぎ倒してひろがっていく沼。

熱帯林伐採も、土砂の流出などによって周囲に被害をもたらす。しかしここでは、大地が崩壊していくのだ。

しかも、夏になって水分が蒸発すると、塩分が大地を覆う。わずかな草しかはえない、不毛の大地と化し、森は再生しない。

雨量の少ないここでは、凍土から水分を補って森が保たれるのだ。延々とひろがる砂漠。

砂漠化はやがて周囲の気候を変えてしまうだろう。

◆「大気」の温暖化」

タイガは科学者の予想を上まわる大量の二酸化炭素を吸収するところが、調査でわかった。最大といわれるアマゾンの吸収量よりも多い。つまり、タイガが消えれば地球の温暖化がさらに進むだろう。ところが、もっとコワイことがわかった。

沼の上空から、北海道の沼のの百倍以上という、高濃度のメタンが検出されたのだ。

メタンは、二酸化炭素の二十倍の温暖化をもたらす。

なぜ、メタンが発生するのか。原因は、

1 沼に沈む、枯れた草や落ち葉が腐り出した。大地が凍っている間は腐ることがなかったものだ。

2 永久凍土ができた時代の大気の成分が、氷に閉じ込められている。氷を薄切りにすると、たくさん気泡が見えるが、中には高濃度のメタンがはいっている。

4000億（大気中の一千倍）のメタンがあると推定される。

◆「ノルマにおわれる伐採者たち、そして、やはり日本が！」
トラクターが下ばえを根こそぎにし、ブルドーザーが土をえぐる。おなじみの伐採の光景だ。直径3センチ以下の木を切ってはならないと決まっているし、立ち入り検査もある。しかし、残った木も、根を傷つけられて枯れてしまう。

家族を離れ、三週間の旅に出かける伐採隊の男たち。町の森林生産組合のノルマを果たさねば、生活がなりたたない。

しかも、今回の仕事は今までで一番きびしい。日本からの注文は品質も納期も大変厳しいからだ。一日半時間働かねば、ノルマが達成できない。

必要な木だけ切って、苗を植える。こんな作業が必要なのはわかっていても、ノルマに追われる彼らには、余裕がない。

「ここは、もうだめだ。次の土地へ」と移動していく。シベリア全土でも植林しているところはほとんど無い。ここ数年の伐採で、現場は奥地へと遠ざかっている。

港でイカダに組まれる、五万本の丸太。行き先は日本だ。シベリア木材の6割は日本行きになる。91年で513万本の丸太が日本に輸入された。日本は世界一のシベリア木材輸入国だ。

91年で4万坪の面積が伐採された。東京都の3.5倍だ。

シベリア材は、一般住宅の内装材や柱に使われる。丈夫でシロアリがつきにくいので、ますます需要が多くなるだろう。

日本商社とロシア共和国は「第四次シベリア森林開発プロジェクト」で、むこう5年間に600万㎡、680万本切る交渉をしている。代金のかわりに、伐採用のフォークリフトなどを支給するといい。

世界の森の四分の一を占めるシベリアの森が、いま崩壊していく。



三菱化成は高裁判決に従い、マレーシア住民の声を聞け！

西岡 良夫

ウータンニ四号でもお知らせしたように、公害輸出をしていた三菱化成の子会社であるA R E社に対して、七月十一日、マレーシア・イボ高裁は「操業停止」を言い渡した。

その後の七月末に、A R E社は判決を不服として上告を行った。また、親会社である三菱化成も八月十一日にA R E社の意向に同意した。

事の発端は、日本で公害規制を受け放射性廃棄物を精製する工程を禁じられたため、三菱化成はマレーシアにその工場を一九七九年に造ったことによる。なぜ、危険すぎる公害を輸出したのか。それはハイテク時代を迎え、テレビの赤色発光体や車の触媒、ウォークマンの部品を大量に生産出来て、備けるためだった。

マレーシア・ブキメラ村に工場を造り、廃棄物を池に埋めたり、穴のあいたドラム缶に野積みしていた。被害は当然出て、ガン、白血病患者などをだした。余りの被害に、一九八五年に住

民は裁判に訴えた。

死者も増えて、この十月二十八日には八歳のウー・チーホーちゃんも帰らぬ人となって、死者は合計七名となった。

この十一月二〇日、マレーシアから来日した医師、元工場労働者などを迎え、『マレーシアの公害被害住民の声を聞こう』という集いが大阪でもたれた。

ずっと被害者を診察してきたジャヤバラシ医師は、「工場建設に際し住民に相談すらもなかった。放射性廃棄物トリウムは、工場周辺に捨てられたままだった。八八年の調査で、三十歳以下の一八八人の母親からわかった事は、一五名が原因不明の流産になり、頭の部分が異常な子を生んだ親もいます。今も患者が増えています」と。

彼は「日本の方々に、三菱化成子会社の操業停止を永久にするよう協力してください。死んだ人や患者に対して補償や医療基金をお願いします」と加

えた。

元労働者だったビンサハリさんは、「六ヶ月働いて、肉体の異常をきたして私は辞めました。しかし、弟は一九八九年夏に、突然異常をきたして病院へ行きましたが、手遅れで九日後に亡くなったのです。A R Eから補償もありません。公害輸出は許せません。」

医療基金担当のウー・ア・ペンさんは「操業停止になっても、病人は続きます。基金などを知人に伝えて下さい」

最高裁で「操業停止」判決が出るよう三菱化成等に、皆さんも手紙を出してください。公害輸出を止めましょう。



▲ブキメラ村の被害を訴えるジャヤバラシ医師とサンヌガン看護婦(10.20大阪集会にて)

寄稿

「私なりにできることからずずず……」

◎千葉県松戸市立小金北中学校・三年五組

去る11月、千葉県松戸市の小金北中学校より文化祭を熱帯林問題をとり上げたところとでウータンにパネル貸出の依頼をうけました。そこで文化祭を終えた三年五組の方に感想を送っていたのですが、ここに紹介させてもらいます。ありがとうございます。これからますますしくね。

【中野友美さん】

◆文化祭で、今まで知らなかった「ウータン」の活動、その他を知りました。世界の現状を見ると私たち日本人がどれだけ裕福でぜいたくであるかがあらためて思い知らされました。私たちは確かに、森林が失われて住民が苦労していることは知っていましたが、ただそれだけでそれ以上の事実を知ろうとは思っていませんでした。

「どこかの誰かが何かをしてくれろ」と他人まかせで余り何もしていませんでした。今ここに木材の輸入を全部ストップさせたら固ってしまうけれど、「必要最低限」に仕上げ、紙は真・白・じゅ・なく・ては嫌だ」の様なぜいたくをなくせばいいと思います。

私が思いついた「少しでも資源を大切にす」方法というか自分自身(家族)の心がけは①学校からのプリントや広告の裏を計

算、その他に利用する。②をばよどの出前をとる時は割りばしを断る。こんなこといふことしか思いつきません。

私は私なりに、できることからずずずず何かを始めていきたいと思えます。

【名藤杏子さん】

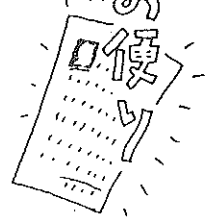
◆私は文化祭などを通して、世界の様々な問題を勉強することができてよかったと思っています。もしそのようなことをしていなければ、きっと私は自然破壊がどれほど進んでしまっているのかわからないまま大人になってしまっていたかもしれません。今回、ウータンから送っていた資料を読み今までよりずつとわかることができました。私ザ寝ている時、食卓をしている時、そしてこの文を書いている今も本が伐採されつづけていると思うと、とてもこわいです。最近日本でも各地でシンポジウムが行われたりして、感じが高まってきているとは思いますが、やはり原因になっているのは、大企業などが紙を粗末に扱っているからだと思うので、もっと物を大切に扱っていくべきだと思いました。勉強して、さまざまな問題を知らずとも大切なことだと思えますが、それ以上にそれらの問題に対し、自分達が具体的に行動していくべきではないかと思えました。

作りあげよう！
私たちの心の卒業式を



▶黒板に展示されたパネルの各々(小金北中)

THANK YOU! ウィークンに届いたお便り



お便りいつもおおきに、カガでます。

(振込用紙)

●この用紙を前に、もの想いに決んでいます。一年間ノホホと喜まして、たなありと。人固は自然よりも何よりも、ま先に自らの文化を破壊してきた。という意味のことを読みました。伝統的文化、暮らし方には自然の恵みを永続的に受けられる工夫や、ルールがいっぱいあるのさしやうね。

【大阪市・北村千枝子】

●いつもいつもウィークン通信楽しく読ませて頂いて、すいません、ありがとうございます。清水の舞台から飛びおりたつもりで(え?)年會費お送りします。淡路島から大阪は遠くてなかなかに何にも参加できていませんが、こちらでもがんばっています。

今後ともよろしゅうに。

【兵庫県津名郡・石上リカ】

●日頃の御活躍がパンフを通してひしひしと伝わってまいります。すみからすみまで詰めつくされた活字や絵に圧倒されます。

先日、「政治腐敗に怒り大行動を呼びかける市民の会」にとび入りして東京行動に参加しました。守口から来たという74才の女性が

ら豊中の18才の高校三年生まで、16名のメンバーでした。やっぱりというか、ほんまに「ん」というのが政治権力、警察権力は汚いし横暴である。疲れ果てた一日でしたが翌日から前より元気

です。みなさんの御健康を、

【芦屋市・加賀寿子】

●果敢なお働きに感動しています。

せめて紙のムダ使いをせめよう心がけています。

【大阪吹田市・松井義子】

●いつも興味深く拝見しています。

又シベリア破壊などの最新情報があれば載せて下さい。

【大阪摂津市・香本明世】

●11/8のコンサート行きにワクワクたのですが、大阪友の会の例会变行で、いけなくなり残念でした。又イベントに行かせてもらいます。いつも充実したニコスありがとうございます。

【大阪市・向井千晃】

*ありがとうございます。

ありがとうございます。

「ウィークン」購読料・カンパを振り込んでくださった方

【10月～12月7日まで】

- 吉田隆 一鷹要一 平井英司 鶴川まき 橋本杉子 坂本友良
- 甲賀喜夫 高橋敬一 川北寿子 石上リカ 市崎英二 山中浩二
- 三木恵美子 熱帯林保護団体 島直紀 太田敏一 浜田由里子
- 北村千枝子 駒井史子 薦田哲 大西裕子 永田展雄 牛田等
- 鍋木里子 池山久子 日本キリスト教団竹原教会 浅野かおり
- どいかずみ 香本明世 誕生日ありがとう大阪の会 松井義子
- 加賀寿子 池田志津香 小端茂 藤岡正雄 (敬称略)

*田中順子さんが、また沢山美しい切手を送ってくださいました。井下秀子さんからも切手をいただきました。

熱帯木材 不使用の 申入れ

熱帯林を切るのを止めて!

Daijro Mori

氏名 **森 大 事 郎**

マレーシア州サラワク市

住所 **プナン町 1993番地**

「このまっせ、市長はん、

**PLEASE
SAVE OUR
TROPICAL
FORESTS!**



私達は、世界の熱帯林がなくなることの大変憂えています。このまま伐採が進むと、毎年2047年に消滅すると、米国際環境保護庁が警告しています。

日本は世界一の熱帯木材輸入国であるのに、その8割は合板に加工して、2回程で使い捨てです。木材生産者の健康被害もまた、伐採によって、多くの先住民が生命と文化の危機にさらされていると、聞きました。

ヨーロッパ、オーストラリア、アメリカなどの多くの自治体は、「熱帯木材の使用をやめる条例や決議を決めた」と知りました。しかし、最大の熱帯木材消費国である日本で、自治体も会社も熱帯材の消費を減らそうとしない状態が続けば、更に熱帯林を壊し、人々を危機に追い詰めます。

貴自治体は、コンパネや熱帯木材の使用を中止しよう今すぐに条例か決議を決めて下さい。青い地球と先住民の暮らしを守るために!

NEW YEAR CARD '93

**「熱帯木材不使用」
年賀状を自治体
へ送って下さい!**

Let's Action!

●今回通信の中に以前ウータンを作った「熱帯木材不使用要望」ハガキを入れさせてもらいました。
このハガキを年賀状として(一応、ハコを押しておきました)「お年玉」の自治体へ送って下さいませんか? 「赤ペン」の「このまっせ」は「まっせ」と一言かいていただくだけでもいいと思います。
友人・知人のあなたへの賀状の中に1枚入れてやって下さい。
「1つの小さな行動として……」
よろしくお願いたします。

▲同封のハガキ (年賀のハコを一応入れてあります。)



◆「ウータン」パンクナンバー」あります。各2000円、配送料別。

◆「ビデオ」貸出/販売」
サラワクの先住民カヤン・ウマバワン村の暮らし」
VHS 56分音楽入り。90分15〜24の記録
1回貸出3000円(送料別) (バラムロウマバワン村へ
渡す→郵送しなさい)

◆「パネル」貸出」
「サラワク編」20枚Set・1回貸出4000円(送料別)
熱帯林の伐採、先住民の暮らし、地図などをご紹介します。

◆「スライド」貸出」
「熱帯林を守れ!」サラワク編」
50枚Set(説明文あります) (熱帯林と伐採の様子など
1回貸出・4000円・送料別です。
*「サラワク報」でおなじみのKさんの協力によるものです。

◆「Tシャツ」販売」
森英二郎さんの版画による
5色刷です。キレイなヨ
半袖 M・L 各2700円
長袖 M・L 各2800円
※全て、活動資金になります。

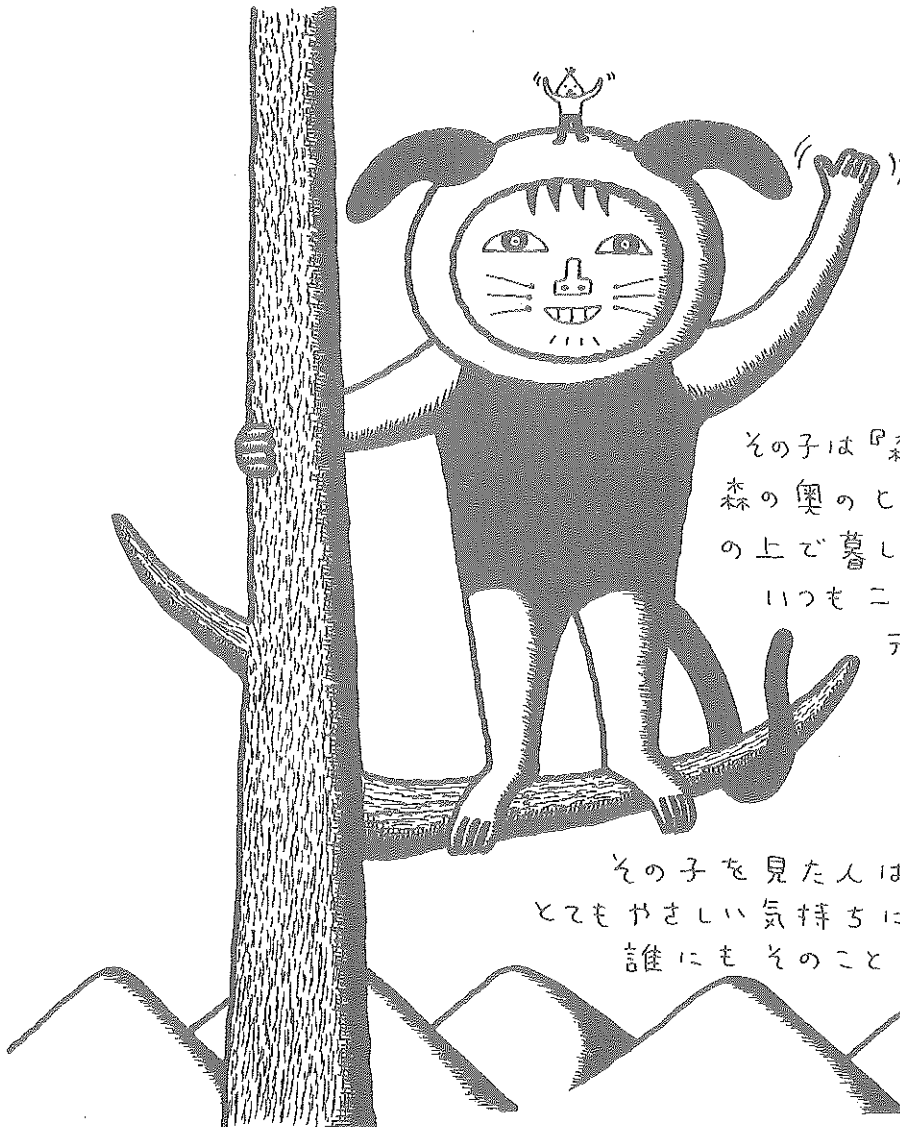


▲生地はアメリカ製です。

【問い合わせ】0722-52-0505 西岡まよ

◆ 土橋とし子 (つちはし・としこ)

1960年、和歌山県に生まれる。
浪速短大デザイン芸術科を卒業後、デザイン事務所「Bグラフィックス」に入る。
1985年、東京へ！フリーのイラストレーターとして仕事を始める。
以後、本や雑誌だけでなくテレビCMやポスターなども手がける。
不思議な登場人物や異次元を想像させるイラストはとくに若い人に人気がある。
本当に小さい扇をぬって特別に描いていただきました。
'92.12月18日に新潮社より「オリオン画報」が出版。
現在、猫2匹(三田郎・ハナ)と東京在住。



その子は『森のこども』
森の奥のとても高い木
の上で暮しています。
いつもニコニコ
元気です。

その子を見た人はなんだか
とてもやさしい気持ちになりました。
誰にもそのことは話せ
ませんでした。

New Year

「ワータンといさまして/93年!」
ワータン総会&新年会

HUTAN

JANUARY

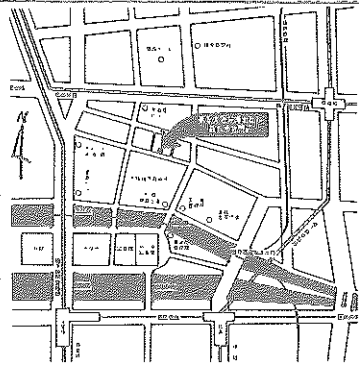
●1月10日(日) 1:00 pm ~ 4:00 pm.

ACTION

【場】プロボ/センター (大阪地方裁判所北側5分)
 Tel. 06-366-5011 神戸大附属エビル3F
 (交通)地下鉄 御堂筋線「深屋橋」から10分、[野筋5分]、
 谷町線「森森町」から10分
 【特別ゲスト】猪俣栄一さん(熊鷹熱帯林問題研究所)
 ・毎度おなじみの猪俣さんに「私ども、まちごとへんが熱帯林保護運動のつとめを担って話していたらどうですか。」

SCHEDULE

1993



4 おおむねの面編まで、TEL.077-222(ワタ)077(ワタ)まで。

WANTED

●金沢市湖陽2丁目64 の名無しのごんべえさん(10/26)
 ●東日本橋三の局より、まに払込人の氏名住所とも「ワータン」で払い込んだ方、あなたはどなた?
 振込みされた方はワータンまでどうぞご一報を!!
 電話 06-366-5011

報の発送を中止させていただきます。よろしくお願ひします。
 未払いの方には今回振込用紙を同封いたします。行き違い等ありましたら、お許しく下さいね。

「ワータン」の活動は、みなさんの購読料とカンパで支えられています。「ワータン」を一回発行するたびに、約十萬円の経費がかかるし、事務所の経費、チラシ代もかさみます。
 スタッフはもちろん手弁当で、グッズを売ったり、出前講座の謝礼を会に入れたりしていますが、集会やコンサートの度に資金に悩む日々です。

そのため、今までは、2年間購読料を払わない方にも会報をお送りしてきましたが、3年からは一年間はらっていかない方には、会報の発送を中止させていただきます。よろしくお願ひします。

購読料払込の時期(年度の変わり目)を変更します。
 今まで「ワータン」購読料は当年6月から翌年5月を一年としていましたが、「わかりにくい」との声もあり、9年からは1月から2月を一年といたします。
 (ただし、9年6月以降に振り込んでくださった方は、来年2月未まで有効です)

「ワータン」の活動は、みなさんの購読料とカンパで支えられています。「ワータン」を一回発行するたびに、約十萬円の経費がかかるし、事務所の経費、チラシ代もかさみます。
 スタッフはもちろん手弁当で、グッズを売ったり、出前講座の謝礼を会に入れたりしていますが、集会やコンサートの度に資金に悩む日々です。

必ず読んで下さいね!

ワータンから

FOR YOU.....



CUT E. MORI

【ワータン事務局】

〒556-2104 大阪府東淀川区西淀川3-308号
 TEL. 06(3)72-1561
 FAX. 06(3)72-1561

●ワータン定例会は、第2と第4火曜日午後7時半から「関西市民連合」事務局(上記地図)にて行っております。

HUTAN

編集集後記

◆ワァーッ、今年もあと数えるばかりは勇は山積み..... 「どないしょ。」と毎年ブンブン言っているこの季節。「まあ、何とかなるやろ。」気分をと直してやっているとほんまに何とかなるもんです。さて、この一年「ワータン」を語っていただいていたことがどうございました。

来年もこんな調子でやりまっせ。よろしくお願ひします。皆さん、よいお年をおむかえ下さい。

スタッフ大募集! カンパもおねがい!

TEL. 06(3)72-1561